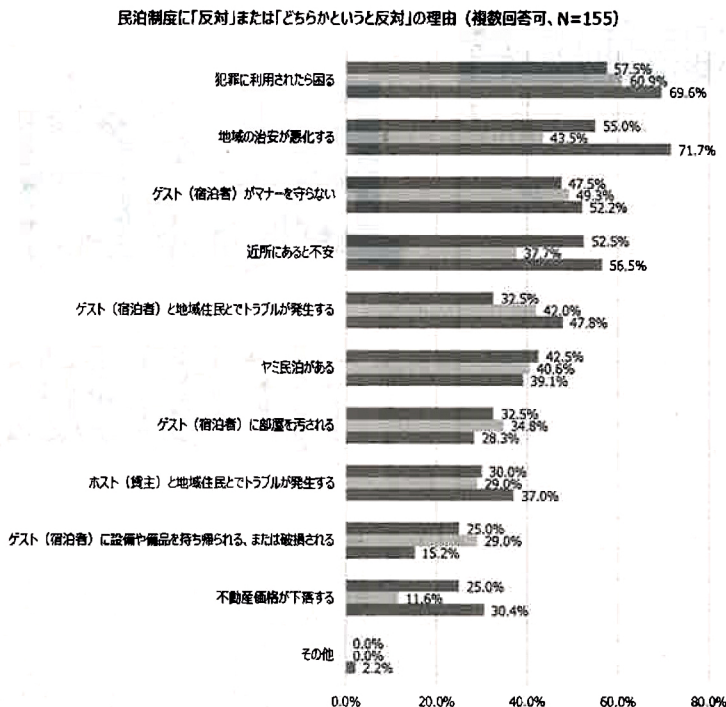


「民泊利用したくない」6割

リビング・テック
ロジーズ調査 民泊経営は敬遠くつきり



グラフ3本の並びは、上から40代、50代、60代以上

不動産関連の比較査定サイト「スマイスター」を運営するリビング・テックノロジーズ（旧シースタイル、東京都中央区、川合大無社長）は、6月15日の住宅宿泊事業法（民泊新法）施行に合わせて民泊に関する調査を実施した。

「犯罪に利用されたり困るから」（62・7％）と治安面での不安を挙げた。

「民泊の利用経験」も尋ねたところ、利用したことのある人は4・0％に過ぎなかった。「今後民泊を利用したいか？」では「利用したくない」（57・8％）が6割近い。

民泊制度に賛成との回答が6割程度いるのにもかかわらず、利用意向は約4割という結果だった。

「機会があれば民泊を経営したいか」では、「経営したくない」の比率が40代で76・2％、50代が75・2％、60代以上84・5％とどの年代とも大勢を占めた。「既に経営している」は、どの年代もほぼいなかった。

民泊制度に賛成と回答した人は63％と6割に上り、「空き家の活用ができるから」（59・9％）が賛成理由として最多だった。反対と回答した人

代もほぼいなかった。